

令和3年度大阪府立布施高等学校第2回学校運営協議会全日制部会 議事録

日時： 令和3年12月16日(木) 15:30~17:00

場所： 本校文化会館 会議室

出席者： 委員6名（久会長、川添副会長、大里委員、高谷委員、岡田委員、那須委員）
事務局5名（校長、事務部長、教頭、首席2名）

1、 学校長挨拶

2、 会長挨拶

3、 報告

- ・学校説明会等について

4、 協議

令和3年度学校経営計画進捗状況について

（委員会らのご意見等）

○働き方改革に伴う教員のクラブ活動の負担減について、クラブ専門の先生はどうなっているか。

→部活動指導員と外部指導者の制度がある。部活動指導員は、教員に代わり生徒引率等責任ができる。本校では1名配置。外部指導員については、3名配置であるが、活動にあたっては教員の付き添いが必要である。

○勤務時間外の勤務について、国は具体的な対策をしているのか。

→時間外勤務はクラブ指導が一番多い。教員の数を増やすなどをしないと改善されない。

○個人の独力でできることとそうでないことを考え、仕組みやシステムを考えないといけない。現場から声を上げていく必要がある。

○授業アンケートの結果で、「生徒の取組1（予習・復習）」の数値が下がったことについて、教科ごとでなにか取組はあるか。

→以前は板書で本文を写したりしていたが現在はプロジェクターを使い時間短縮ができ、生徒の評価も高い。スタディサプリで勉強することを徹底させたこともある。週末課題等で利用させてもらった。

○大学では、オンデマンド授業の検討をしている。特に理工は同じことを教えるので、他大学のより良い授業を見せたほうが良いのではないかという意見もある。一方、先生が対面で教えたほうが良いという意見もある。自分の授業をもう一度考え直す必要がある。このことを考えていくことにより、働き方改革につながっていく。

→現場でも、教えることに閉鎖的になりがちである。授業公開や授業交流を行う必要がある。

○大学でも、半期に一度話し合って指導の方向性や内容の一致を図っている。このことで

お互いのことがわかってきている。特に、グループウェアの Slack を利用し密に話し合えるようにしているグループもある。ウェブを活用することによりすぐに困っている先生への回答や好事例などを出し合えている。卒業論文の時期なので、2・3年生の足りないことなどを情報交換がすぐにできる。委員会の半分を Slack 上で行い回数が3分の1になった。

○先生方の ICT 環境はどうか。

○東大阪の中学校では、生徒には今春から一人一台の i-pad がある。教員分はないので要望はしているが現状は、工夫してやっている。枚方市、奈良県や寝屋川市は教員分もあると聞いている。

→大阪府も、クラス数＋予備のみで教員分はない。必要な先生は自費で購入し使用しているが、学校のネットにはつなぐことができないのでネット環境まで自前でする必要がある。

○小学校は家庭の Wi-Fi 環境が揃っていないこともある。布施高校でも、Wi-Fi 環境の整っていない家庭向きに、Wi-Fi が使える場所を提供する必要があるのではないか。小学校にはルータを生徒に貸し出す準備はある。

○Google の共有スプレッドシートが大好きな先生がいるので、クラスルームで資料共有ができ、情報の共有もできている。

○探究の科目を学ぶことで、国公立総合選択で受験をする生徒はいますか。

→本校でも、探究活動に力を注いできた結果、神戸市外国語大学を総合型選抜入試で合格する生徒もでてきた。

○新学習指導要領で入試が変わる。授業改革も進んでいる。教科横断的な科目も増えてきている。先生方も互いに学びあい変わっていく必要がある。

○一斉授業は、真ん中の成績の生徒に焦点を当てることになり、成績上位者や下位は授業に合わない。グループで教えあい、学びあうと全員がうまく授業に参加できる、このやり方に1つのこれからの授業のヒントがある。

○反転型授業も、成績に差がある場合も授業がうまくいく1例ではないか。

○国際交流についても、リモートで実施してみてもどうか。

→本校の生徒にとっては、対面のほうがコミュニケーションを取りやすいと思われる。今年度は、国内イングリッシュキャンプ等を実施した。

○片言でもできることをしたほうが良い。交流しても1回のことなので、ラインなどを利用して友達を増やしていったほうが良い。

○英語がネイティブでない欧米の出身以外の同年代と英語で会話をしたほうがうまくいくと思う。